

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】

毎年調査結果票 2009 (平成 21) 年度

(1)サイト名	松川浦 (福島県相馬市)	略号	TFMTK
(2)海域区分	④中部太平洋沿岸		
(3)緯度・経度 (WGS84)	A エリア (鵜の尾) : 37.8218 N, 140.9845 E		
	B エリア (磯辺) : 37.7808 N, 140.9799 E		
(4)調査年月日	2009年5月23日		
(5)調査者氏名	サイト代表者: 鈴木孝男 (東北大学大学院生命科学研究科)		
	鈴木孝男・佐藤慎一・風間健宏 (東北大)・内野 敬 (田尻さくら高校)、 金谷 弦 (国立環境研)		
(6)環境の概要	A エリア: 潟湖干潟の通水路に近い位置にあり、入江状になった干潟。入江の最奥部は泥が混じる。潮上帯には小面積の塩性湿地があり、潮下帯の水路沿いにはアマモ場が広がる。干潟には海苔棚がある。		
	B エリア: 松川浦の最奥部に位置する干潟で、潮間帯下部は砂泥質となり、一部泥質のところもある。潮間帯上部にはパッチ状の狭いヨシ原が存在する。小河川の流入があり、ところどころに小規模のイガイ礁が見られる。シギ・チドリ類が比較的高頻度で採餌に訪れる干潟である。岸辺にはゴミの打上げが多い。		
(7)底生生物の 概要・特徴	A エリア: 腹足類、多毛類、甲殻類の出現数が多く、多様性豊かな干潟である。干潟一帯でホソウミニナとマツカワウラカワザンショウ (未記載種) が優占する。地高の高い砂地にはコメツキガニ、その下の砂泥底にはチゴガニ、泥地にはヤマトオサガニが生息するほか、ウミニナ、ユウシオガイ、ソトオリガイ、ツバサゴカイ (棲管) 等の希少な種も出現した。多毛類ではコアシギボシイソメが比較的多く出現した。また、外来種のサキグロタマツメタが生息する。		
	B エリア: ホソウミニナとマツカワウラカワザンショウ (未記載種) が優占するほか、イソシジミとオキシジミが多く出現した。希少種のカワアイは昨年と同様に認められた。また、カワゴカイ属の複数種をはじめとして多毛類は 8 種類が出現した。等脚目のスナウミナナフシ属の 1 種が比較的多く出現した。潮間帯下部の砂泥質から泥質のところにはムラサキイガイからなるイガイ礁が点在していた。		
(8)底生生物の 変化	A エリアの塩性湿地に生息していたフトヘナタリは減少した。B エリアで昨年初めて確認されたサキグロタマツメタは認められなかった。また、塩性湿地に生息していたフトヘナタリも認められなかった。外来種のヨーロッパフジツボの生息範囲は両エリアに拡大していた。		

(9) その他特記事項	A エリアでは、海苔棚の面積が増加した。また、アナアオサの打上げは、今年は見られなかった。A エリア等、北部の干潟には、外来種のサキグロタマツメタが相変わらず多く生息していた。アサリの潮干狩場周辺では秋に卵塊の除去等、駆除を継続して行っているが、生息数が減少するまでには至っていない。外来種のシマメノウフネガイはそれほど増加していないようだ。
-------------	---

調査地の地図

	<p>位置図（広域地図） 円内に調査地がある。 上：Aエリア（鵜の尾） 下：Bエリア（磯辺） スケールは5 kmを示す。</p>
	<p>位置図（詳細地図） Aエリア 円内に調査地がある。 左：潮間帯下部（AL） 右：潮間帯上部（AU） スケールは1 kmを示す。</p>
	<p>位置図（詳細地図） Bエリア 円内に調査地がある。 左：潮間帯下部（BL） 右：潮間帯上部（BU） スケールは1 kmを示す。</p>

調査地の景観、生物写真等



A エリア (鶴の尾)



B エリア (磯辺)



ホソウミニナ



マツカワウラカワザンショウ



カキ礁



ムラサキイガイ



ユビナガホンヤドカリ